

# リウマチニュース

平成19年4月号

## ご連絡ください。

移転してはや半年。センターとしての期待からか新しく受診される方が増えています。それに伴い、リウマトレックスを代表とする免疫抑制剤やレミケード・エンブレルなどの生物学的製剤を使う方が大半を占めようとしています。

リウマチを治療する上でこれらのお薬は大変重要なものですが、副作用とそれに対する対応の仕方も理解していきなくてはなりません。

それらの薬には、たいてい服薬確認書をお渡ししていると思います。その用紙をみて、当てはまる症状がありましたら、速やかに当院へご連絡ください。

連絡先：Tel 0254-23-7751（代）

平日、8時30分～17時15分まではリウマチ外来  
夜間、土、日、祝日は4階リウマチ病棟

※どんな些細な事でも結構です。おかしいなと思ったら、まずは一報をお願いします。

重篤な副作用を防ぐためには、早めの対処が必要です。





## 考えてみませんか、痛み止めのこと。

先ほどお話したように、リウマチの治療にはリマチルやアザルフィジン、リウマトレックスなどの抗リウマチ薬が必要不可欠です。痛み止めはこれらを補うものとして痛みを和らげるために使われています。よく誤解される方が多いのですが、痛み止めは今ある症状に対するものであって、リウマチそのものに働きかけるわけではありません。ですから、必ず使わなければならないということではないのです。

入院されたことのある方は、一度は必ず胃カメラを飲まれた経験がおありになるのではないのでしょうか。実は、リウマチの方の2～3割は自覚症状が無くても胃炎や胃潰瘍になっていることがあるのです。原因は様々ですが、痛み止めの副作用もその一因です。

こんなことを書いていますが、決して皆さんに痛み止めを飲むとか坐薬を使うなど言いたい訳ではありません。皆さんにとって痛み止めがどんなに大事なものは十分理解しているつもりです。ただ、こういった副作用があるということを理解して頂いて、決められた量以上は絶対に使わない、定期的に胃カメラを受けるなどをしていただきたいと思います。今回は記事に取りあげてみました。



### リウマチファイルについて

ある患者様から『以前のリウマチ手帳に比べ大きくなったために、持ってくるのが大変だ。』とのご意見をいただきました。ご不便おかけしております。

外来では、リウマチADL表の活用と血液検査の結果を保管するためにファイルを採用しました。診察の度ごとにADL表を記入していただき、治療の参考としていますので皆さまのご協力をお願い致します。なお、ファイルにつきましてはご自宅で保管していただき、ADL表と検査結果を後で綴って頂いても結構です。

入院に際しましては、ファイルが必要となりますので忘れずにご持参下さい。

★表紙にシールを貼ったり、インデックスをつけて分類したりしている方もいらっしゃいます。自分なりに工夫してみるのも楽しいですね。

